

大山崎町第3次総合計画・第3期基本計画策定のための

# 「住民アンケート」調査 集計・分析結果報告書

平成22年1月実施

大 山 崎 町

## ご あ い さ つ

本町では2001年3月に、21世紀を展望した新しいまちづくりをめざす大山崎町第3次総合計画「おおやまざき・まちづくりプラン2015」を策定し、町政推進の基調としています。この総合計画の第3期基本計画を策定する運びとなりましたので、広く住民の皆様に参加していただく機会として、この「大山崎町のまちづくりに関する住民アンケート」調査を実施いたしました。

本報告書は、この住民アンケート調査の結果をまとめたもので、住民の生活実態、生活意識、町の将来への意見、行政各分野の重要と考える施策等について、集計・分析したものです。

このアンケート調査の結果は、住民の総意として第3期基本計画を策定する上での基礎資料とさせていただきますとともに、自由記入欄にお寄せいただきました多数のご意見につきましても、積極的に反映していきたいと考えております。

ここに、このアンケート調査にご協力いただきました皆様方にお礼を申し上げますとともに、本報告書が本町のまちづくりに広く活用されることを期待します。

平成22年3月

大山崎町長 真鍋 宗平

## も く じ

〔1〕 調査の概要	3
〔2〕 回答者の姿	6
〔3〕 まちの評価と定住意向	10
(1) 大山崎町の住みよさ	10
(2) まちの評価	11
(3) 加重平均値によるまちの評価	14
(4) まちの評価項目の重要度評価	18
(5) 住みよさの改善についての分析	20
(6) 町への愛着	22
(7) 定住意向	24
(8) 最も近い子どもの居住場所	25
〔4〕 生活圏と生活実態	26
(1) 生活圏とその変化	26
(2) 町外への交通手段	28
(3) 環境に配慮した暮らし	29
(4) 災害への備え	30
(5) 健康や介護予防	31
〔5〕 近所づきあいや地域での活動	32
(1) 町内会・自治会等	32
(2) 近所の人たちとの助け合い	38
(3) まちづくりへの参加・協力	40
〔6〕 町の各分野についての住民の意向	44
(1) 町の望ましい将来像	44
(2) 環境保全の施策	46
(3) 快適でうるおいのある生活環境づくりの施策	47
(4) 交通環境をよくする施策	48
(5) 防災の施策	50
(6) 保健・医療の施策	51
(7) 超高齢社会に対する施策	52
(8) 少子化に対する施策	54
(9) 町の活性化のための施策	56
(10) 協働のまちづくりの施策	57
〔7〕 調査のまとめ	58
〔付〕 アンケート調査票	67

## 〔1〕調査の概要

### （1）調査の目的

大山崎町第3次総合計画・第3期基本計画の策定にあたって、住民の生活実態・生活意識に即して、町の問題点や課題を総合的に把握し、この総合計画への反映を図ることを主要な目的とする。

具体的な事項としては、以下の5つがあげられる。

- ① 住民による「まちの評価」を総合的に捉え、まちづくりへの課題を把握する。
- ② 生活圏との関連において住民の生活実態を捉える。
- ③ 住民の生活実態やコミュニティ活動を協働のまちづくりとの関連において捉える。
- ④ 町行政各分野において、住民が重要と評価する施策を把握する。
- ⑤ これまでに実施した総合計画のための調査と比較し、時系列での変化を把握する。

### （2）調査の方法

#### ① 調査対象及び抽出方法

町内に在住する20歳以上の住民12,696人を母集団とし、住民基本台帳から無作為に996人を抽出した。

#### ② 調査票の配布と回収

調査票は郵送によって配布・回収を行った。

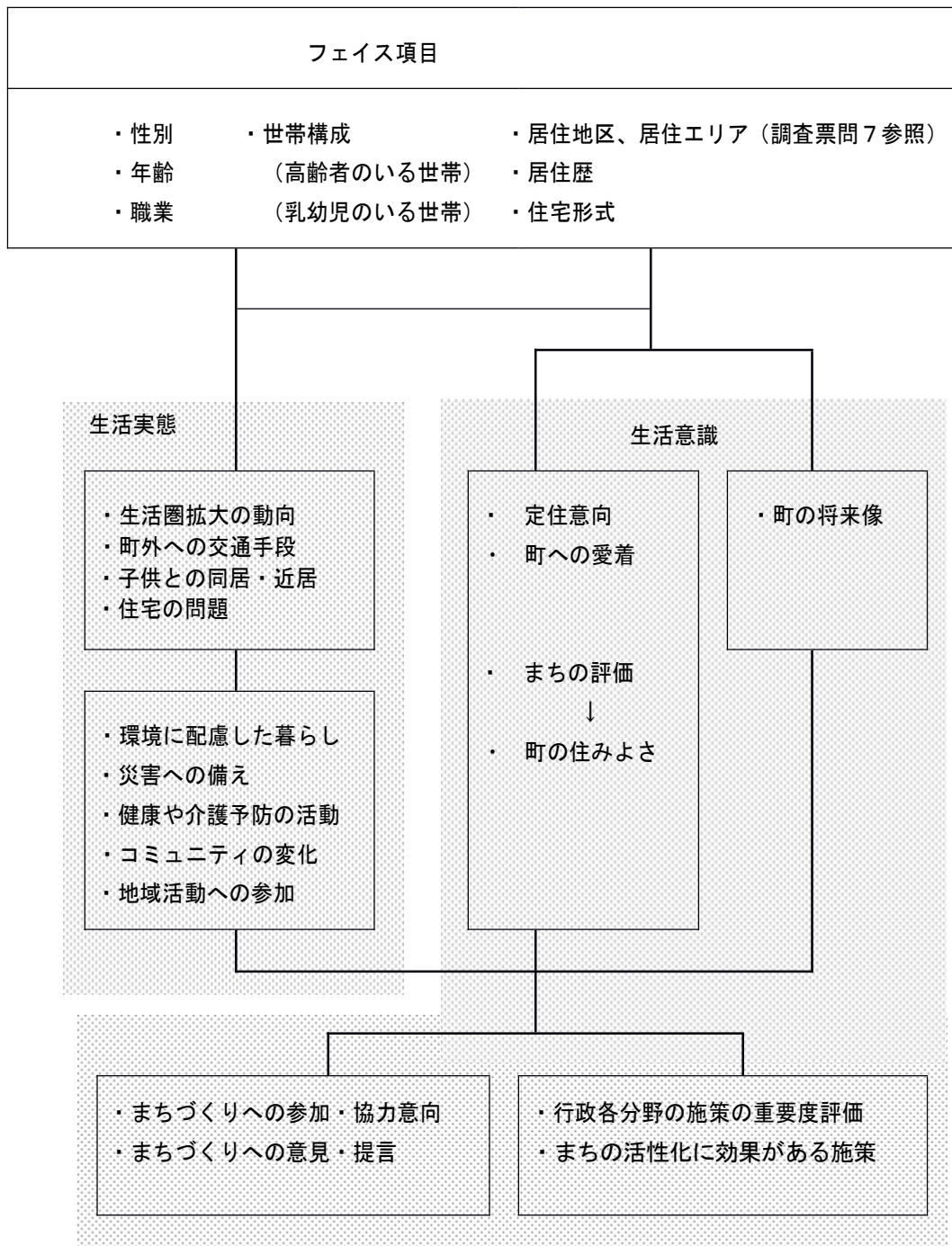
#### ③ 調査期間

平成22年1月15日（金）～1月25日（月）

### (3) 調査のフレームと内容

- ・調査の目的に即して、下図のように調査フレームを設定した。
- ・本調査は、平成16年度調査（平成17年1月実施）の「住民アンケート」調査と比較しながら時系列的に分析が行えるよう、共通の質問事項を設けた。

図表 1-1 調査のフレーム（質問項目の構成）



#### (4) 回収結果

配布数996件に対し、回収数508件（内有効回収数505件）、回収率51.0%を得た。なお、地区別の回収率は以下の通りである。

図表 1－2 地区別回収状態

地区名	配 布 数	有効回収数	有効回収率	構成比
字大山崎	406	209	51.5%	41.4%
字円明寺	475	243	51.2%	48.1%
字下植野	115	50	43.5%	9.9%
不 明		3		0.6%
全町合計	996	505	50.7%	100.0%

#### (5) その他

アンケートの様式は、いくつかの選択肢のうち一つだけ選ぶもの（単純選択・シングルアンサー S A）と、複数の回答を選ぶもの（複数選択・マルチアンサー M A）の2通りである。

単純選択のパーセントは、全て百分率で示した。

複数回答のパーセントは、回答者数を母数とする出現率（たとえば、100人中15人が選択した選択肢を出現率は15%）で示した。1人の回答者が複数の選択肢を選択しているため、出現率の合計は100%を超えることになる。

集計結果の分析において、各カテゴリーの回答率の小数点第1位以下、または、小数点以下を四捨五入して加算した値は、各カテゴリーの回答者数を加算してから回答率を求めた値と異なる場合がある。

なお、分析の順序については、アンケート票の設問を再構成して分析したため、設問の順序とは必ずしも一致しない。

## 〔2〕 回答者の姿

### （1）性別（問1-SA）

- ・回答者は、女性54.6%、男性45.4%で、女性の方が9.2%多い。

### （2）年齢（問2-SA）

- ・町全体では、20歳代が8.1%、30歳代が15.1%、40歳代が13.3%、50歳代が13.9%、60歳代が24.6%、70歳代以上が25.0%となっている。また、60歳代が最も多く、60歳以上が49.6%を占める。

### （3）職業（問3-SA）

- ・「会社員・公務員」等、勤め人が25.8%と最も多い。
- ・「主婦・主夫」は20.0%、「主婦（パート・内職など）」は7.2%で合計27.2%となっている。
- ・「無職」は26.6%となっている。
- ・その他「自営業」5.4%、「パート、アルバイトなど」7.6%、「会社役員」1.4%、「学生」1.2%、「農林漁業」0.8%、「自由業」0.6%、といずれも少ない。
- ・平成16年度調査と比較すると、「会社員・公務員」が1.1%増加し（平成11年度調査と比較すると3.5%減少し）、「パート、アルバイトなど」が1.0%増加している。  
会社役員は1.9%減少、「専業主婦」は4.5%減少、学生や自由業はやや減少し、無職が5.1%増加している。

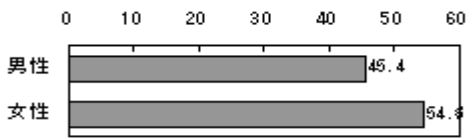
### （4）世帯構成（問4-SA）

- ・「二世帯同居（親と子）」が平成6年度調査では58%、平成11年度調査では55.0%、平成16年度調査では50.4%、そして今回の46.6%へと減少している。
- ・「夫婦のみの世帯」は29.5%で、平成6年度調査では17.6%、平成11年度調査では25.1%、平成16年度調査では29.5%、そして今回の33.3%へと増加している。
- ・「ひとり暮らし世帯」は平成11年度調査では5.7%、平成16年度調査では6.1%、そして今回の7.9%へと少しずつ増加している。
- ・「三世帯同居（親と子と孫）」は平成11年度調査では8.3%、平成16年度調査では8.6%、そして今回の9.3%へと少しずつ増加している。

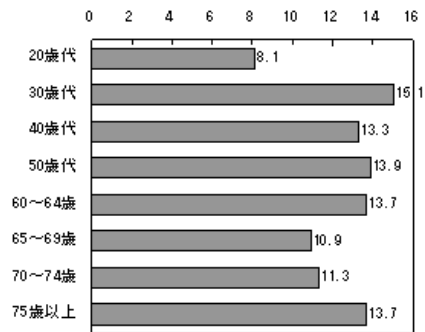
### （5）高齢者、乳幼児のいる世帯（問5-SA）

- ・高齢者がいる世帯は、平成11年度調査では40.6%、平成16年度調査では44.2%、そして今回の50.6%へと少しずつ増加している。
- ・乳幼児（小学校前の子ども）がいる世帯は、平成11年度調査では11.8%、平成16年度調査では11.4%、そして今回の10.8%へと、ごくわずかずつ減少している。

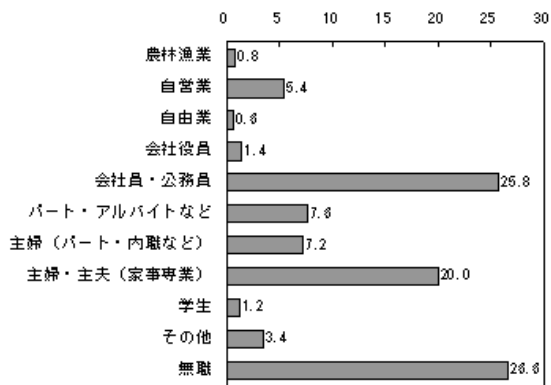
図表2-1 性別



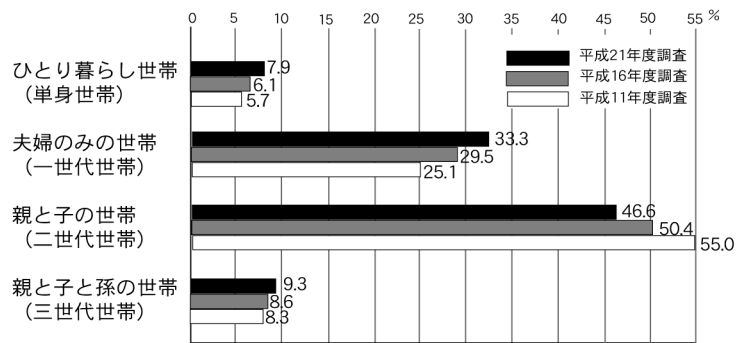
図表2-2 年齢



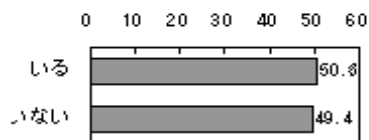
図表2-3 職業



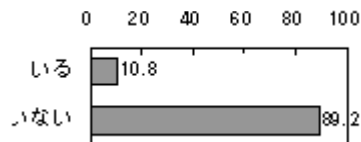
図表2-4 世帯構成



図表2-5 高齢者がいる世帯



図表2-6 乳幼児がいる世帯

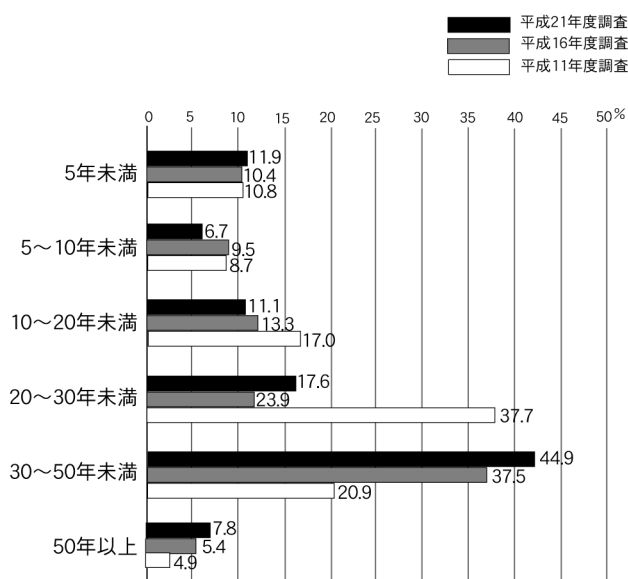




(6) 居住歴 (問8-SA)

- ・「50年以上」が7.8%、「30～50年」が44.9%、「20～30年未満」が17.6%、「10～20年未満」が11.1%、「5～10年未満」が6.7%、「5年未満」が11.9%となっている。
- ・居住歴「20年以上」の人は、昭和59年度調査では15%で、平成元年度調査では39%、平成6年度調査では59%、平成11年度調査では64%、平成16年度調査では66.8%だった。今回は70.3%となっていることから、居住歴20年以上は増えて定住化が継続し、「5～20年未満」は微減、「5年未満」は微増となって転出入していることがうかがえる。

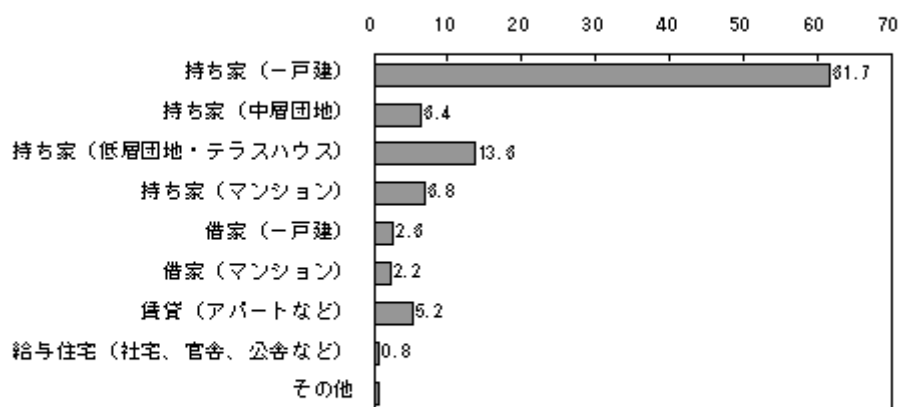
図表2-7 居住歴



### (7) 住宅形式 (問8-SA)

- ・「持ち家（一戸建）」75.3%（内、テラスハウス13.6%）と「持ち家（マンション）」13.2%（内、中層団地6.4%）を合わせた「持ち家」が88.5%と多い。
- ・「借家」は4.8%、「賃貸」は5.2%、「給与住宅」は0.8%、その他は0.8%と少ない。
- ・「持ち家」の比率は、平成元年度調査85%、平成6年度調査90.1%、平成11年度調査85.9%、平成16年度調査89.3%で、今回の調査でも88.5%と多い。

図表2-8 住宅形式



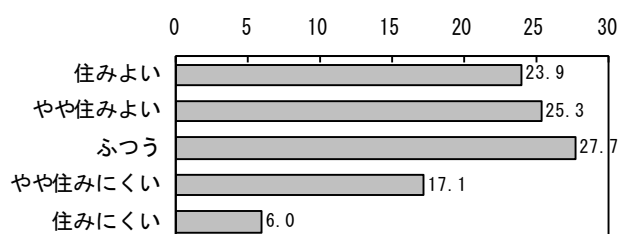
### [3] まちの評価と定住意向

#### (1) 大山崎町の住みよさ

##### ① 大山崎町の住みよさ (問14-SA)

- ・町の住みよさについては、「住みよい」23.9%と「やや住みよい」25.3%の合計の「住みよい評価」は49.2%で、「住みにくい」6.0%と「やや住みにくい」17.1%の合計の「住みにくい評価」は23.1%となっている。
- ・平成11、16年度調査では、「住みよい評価」は45.0%、49.4%、「住みにくい評価」は14.4%、13.2%だったことと比較すると、「住みよい評価」は同じ比率だが、「住みにくい評価」が約9～10%増えている。(図表3-3参照)

図表3-1 大山崎町の住みよさ



##### ② 住宅の問題 (問12-SA)

- ・世帯構成の変化と住宅の適合性をの問いについては、「住居はちょうど適当」が30.2%、「住居は、多少の問題はある」が25.2%、「とくにない」が18.1%、「階段や段差の問題が出てきた」が11.9%、「子どもの成長などで、狭すぎるようになってきた」が7.3%、「住居が広すぎるようになった」が5.0%となっている。
- ・「階段や段差の問題が出てきた」が多いのは、「70歳以上」の24%、「中層団地」の18.8%、「持ち家マンション」の17.6%、「居住歴50年以上」の18.9%。

図表3-2 住宅の問題

	住宅の問題							n	
	住居が広すぎるようになった	住居が狭すぎるようになった	階段や段差の問題が出てきた	住居は多少の問題はある	住居はちょうど適当	その他	とくにない		
合計	5	7	12	25	31	2	18	505	
持ち家(一戸建)	7	5	12	24	31	2	19	309	
持ち家(中層団地)	13		19	19	36		13	32	
持ち家(低層団地テラスハウス)	3	13		35	29	6	13	68	
持ち家(マンション)	3		24	18	15	25	3	12	34
借家(一戸建)	8	8	8	45		8	8	13	
借家(マンション)	18		18	27		37		11	
賃貸(アパートなど)	15	4		31		31	19	26	
船与住宅(社宅、官舎公舎など)			50		25		25	4	
その他			50				50	4	

## (2) まちの評価 [ 各分野の34項目についての評価 ] (問15-SA)

・大山崎町の34の項目について、「よい、ややよい、ふつう、ややよくない、よくない」の5段階評価の回答を6つの分野に分けてみていく。

「よい」と「ややよい」の合計を「よい評価」、「よくない」と「ややよくない」の合計を「よくない評価」として、平成11、16年度調査と併せて図表3-3に示した。

### ① 自然・環境

- ・「自然環境の保全・豊かさ」は「よい評価」63.7%と多く、「よくない評価」は8.6%にすぎない。けれども、平成11、16年度調査と比べると、「よい評価」が10%以上減少している。
- ・「公園・緑地等の環境」は、「よい評価」は28.4%で、「よくない評価」は24.1%。平成11、16年度調査と比べると、「よい評価」が約14~17%減少している。
- ・「環境に配慮した生活・事業」は、「よい評価」は18.3%で、「よくない評価」は17.8%。
- ・「ごみの分別やりサイクル」は、「よい評価」は47.6%に対し、「よくない評価」は7.2%で、「よい評価」の方が約40%ほど多い。平成16年度調査とほぼ同様の評価となっている。
- ・「騒音・振動等公害の抑制」は、「よい評価」18.6%に対し、「よくない評価」は31.8%で13%多い。

### ② 生活基盤・安全さ

- ・「上水道」は、「よい評価」が20.4%、「よくない評価」が44.5%で、「よくない評価」が24%多い。また、平成16年度調査と比べると、「よい評価」が27%減少し、「よくない評価」が34%増加している。
- ・「鉄道交通の便」については、「よい評価」は36.7%で「よくない評価」は36.1%である。大山崎地区は「よい評価」が非常に多く、他の2地区は「よくない評価」が多くなっている。
- ・「バス交通の便」は、「よい評価」が11.0%、「よくない評価」が57.3%で、「よくない評価」が46%多い。また、平成16年度調査と比べると、「よい評価」が12%減少し、「よくない評価」が8%増加している。
- ・「買物の便」「医療機関への交通の便」については、「よい評価」が各々7.7%、8.4%と少なく、「よくない評価」が各々62.0%、55.0%と非常に多い。平成11、16年度調査と比べると、多少の変動はあるが、「よくない評価」が非常に多い。
- ・「生活用道路の安全・快適さ」は、「よい評価」が10.7%、「よくない評価」が53.9%で、「よくない評価」の方が43%多い。平成16年度調査と比べると、「よい評価」が5%減少し、「よくない評価」が12%増加している。
- ・「交通の安全性」は、「よい評価」が5.6%、「よくない評価」が48.7%で、「よくない評価」の方が43%多い。平成16年度調査と比べると、「よい評価」が3%減少し、「よくない評価」が9%増加している。
- ・「歩道の段差・安全さ」は、「よい評価」が6.1%、「よくない評価」が56.3%で、「よくない評価」の方が50%多い。
- ・「小中学校通学路の安全・快適さ」は、「よい評価」が8.3%、「よくない評価」が48.2%で、「よくない評価」の方が30%多い。平成16年度調査と比べると、「よい評価」が7%減少し、「よくない評価」が17%増加している。
- ・「消防・救急、防災」は、「よい評価」は18.8%で、「よくない評価」は11.9%と少ない。平成11、16年度調査とほぼ同様となっている。
- ・「防犯等の安全さ」は、「よい評価」は11.1%で、「よくない評価」は24.5%となっている。平成16年度調査と比べると、「よい評価」はほぼ同様で、「よくない評価」が9%減少している。

### ③ 保健・医療・福祉

- ・「健康づくり」は、「よい評価」は14.3%。「よくない評価」は9.5%、平成11、16年度調査と比べると、「よい評価」は22%、17%、14%と8%減少しているが、「よくない評価」も23%、21%、10%と13%減少している。
- ・「保健・医療」は、「よい評価」は13.0%で、「よくない評価」は17.1%となっている。平成11、16年度調査とほぼ同様となっている。
- ・「福祉」は、「よい評価」は12.9%で、「よくない評価」は19.0%となっている。平成16年度調査と比べると、ほぼ同様となっている。
- ・「高齢者に配慮した環境」は、「よい評価」は10.6%で、「よくない評価」は31.1%となっている。平成16年度調査と比べると、「よい評価」は8%減少し、「よくない評価」は7%増加している。

### ④ 教育・文化

- ・「生涯学習活動のための環境」、「学校教育」、「青少年の健全育成」、「体育・スポーツの環境」、「男女共同参画の取り組み」は、「よい評価」が各々8.2%、10.2%、8.3%、12.6%、4.7%であるのに対し、「よくない評価」が各々18.2%、11.8%、12.1%、15.8%、13.4%で、「よくない評価」のほうが多い。
- ・平成11、16年度調査と比べると、「生涯学習活動のための環境」は、「よい評価」「よくない評価」ともに、やや減少している。
- ・「体育・スポーツの環境」については「よくない評価」が30%、26%、16%と、かなり減っている。

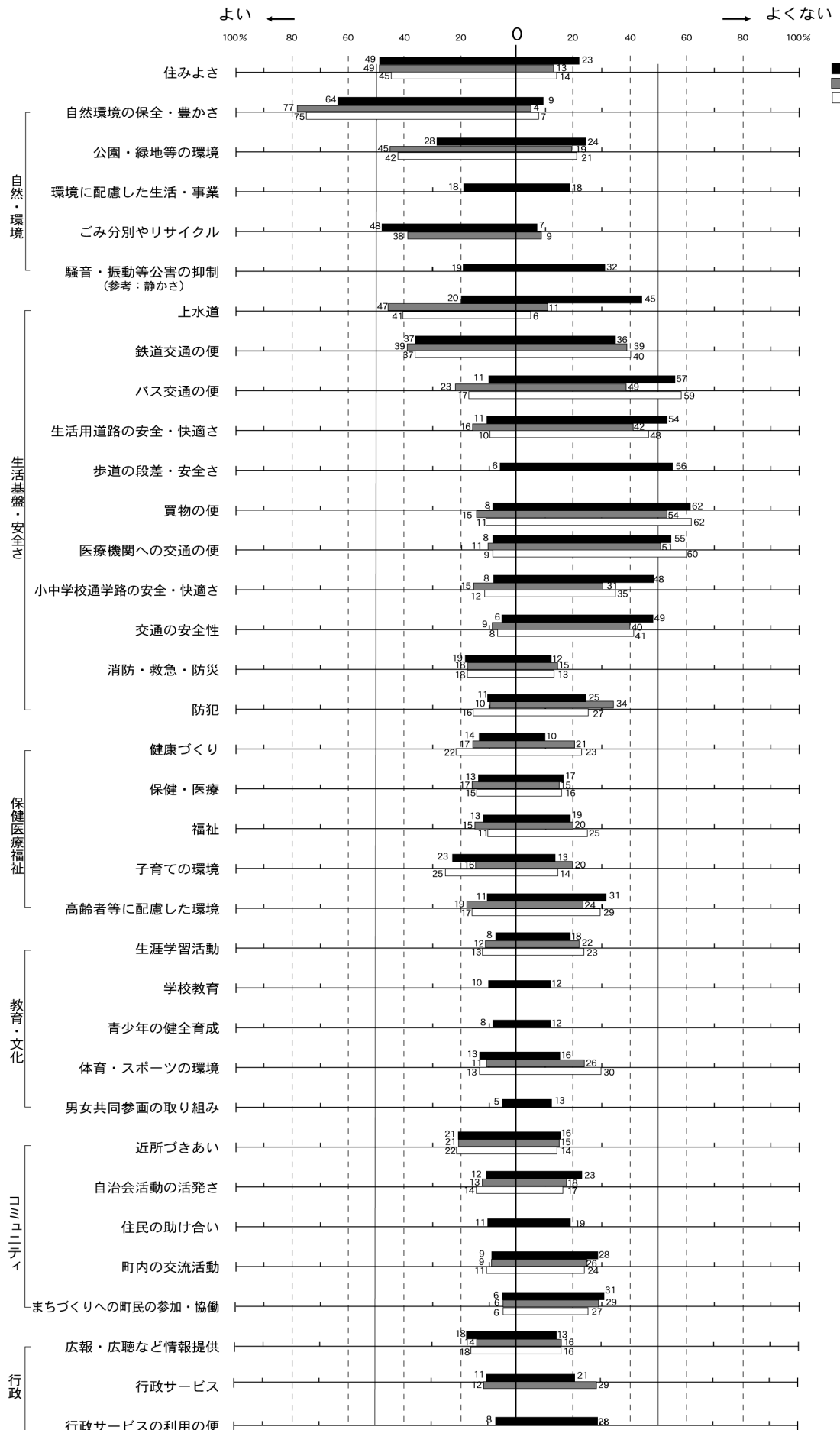
### ⑤ コミュニティ

- ・「近所づきあい」は、「よい評価」が20.5%で、「よくない評価」は16.1%。平成11、16年度調査とほぼ同様となっている。
- ・「住民の助け合い」は、「よい評価」は10.8%、「よくない評価」は19.3%。
- ・「町内会・自治会活動」「町内の交流」「まちづくりへの町民の参加・協働」は、「よい評価」は各々12.0%、9.4%、6.4%と少なく、「よくない評価」は各々23.1%、28.1%、31.0%で、平成11、16年度調査と比べると、「よくない評価」が少しずつ増えている。

### ⑥ 町行政サービス

- ・「広報・広聴や情報公開」は、「よい評価」が17.8%、「よくない評価」が13.2%。平成16年度調査と比べると、「よい評価」が4%増え、「よくない評価」が3%減っている。
- ・「行政サービスの内容」は、「よい評価」が10.6%で、「よくない評価」が21.2%。平成16年度調査と比べると、「よくない評価」が8%減っている。
- ・「行政サービスの利用の便」は、「よい評価」が8.1%で、「よくない評価」が28.4%。

図表 3-3 まちの評価（平成11・16年度調査との比較）



### (3) 加重平均値によるまちの評価（図表3-4参照）

- ・「よい」「ややよい」「ふつう」「ややよくない」「よくない」に、+2、+1、0、-1、-2ポイントの重み付けを行い、各項目の平均値を算出した。平成11、16、21年度のこの平均値の推移による分析を行う。

#### ① 町全体

- ・評価が「プラス」の項目は、高いポイント数の順に「自然環境の保全・豊かさ」0.7、「ごみの分別やりサイクル」0.6で、「町の住みよさ」は0.4となっている。
- ・評価が「マイナス」の項目は、低い順に「買物の便」-0.8、「医療機関への交通の便」-0.7、「バス交通の便」-0.7、「歩道の段差・安全さ」-0.7、「生活用道路の安全・快適さ」-0.6、「交通の安全性」-0.6、「小中学校通学路の安全・快適さ」-0.6などで、道路交通の便と安全性の7項目が占めている。
- ・平成16年度から21年度にかけて、評価が下がった項目を見ると、「上水道」が0.6から-0.4に1.0ポイント下がり、「自然環境の保全・豊かさ」が1.1から0.7に0.4ポイント、「公園・緑地等の環境」が0.4から0.0〜0.4ポイント、「小中学校通学路の安全・快適さ」が-0.2から-0.6〜0.4ポイント各々下がっている。その他、交通の便と安全性の項目についても、各々0.1〜0.3ポイント下がり、「高齢者等に配慮した環境」も0.2ポイント下がっている。  
つまり、町の住みよさを支えている自然環境の豊かさが損なわれ、住みにくさとなっている道路交通環境がさらに悪化していることが伺える。
- ・一方、評価が上っている項目は、「健康づくり」「ごみの分別やりサイクル」「鉄道交通の便」「子育ての環境」「体育・スポーツの環境」「広報・広聴や情報公開」などで、0.1〜0.2ポイント上昇となっている。
- ・こうした評価を受けて、「住みよさ」が0.6から0.4に0.2ポイント下がっているものと考えられる。

#### ② 大山崎地区

- ・評価が「プラス」の項目については、高いポイント数の順に「自然環境の保全・豊かさ」0.7、「ごみの分別やりサイクル」0.5で、「町の住みよさ」は0.5となっている。
- ・評価が「マイナス」の項目については、低いポイント数の順に「買物の便」-0.9、「バス交通の便」-0.9、「医療機関への交通の便」-0.7、「歩道の段差・安全さ」-0.7、「生活用道路の安全・快適さ」-0.6、「交通の安全性」-0.6、「小中学校通学路の安全・快適さ」-0.6、「騒音・振動等公害の抑制」-0.5など。
- ・平成16年度から21年度にかけて、評価が下がった項目を見ると、「上水道」が0.8ポイント、「自然環境の保全・豊かさ」「生活用道路の安全・快適さ」「小中学校通学路の安全・快適さ」「公園・緑地等の環境」「買物の便」「高齢者等に配慮した環境」が、各々0.2〜0.3ポイント下降となっている。
- ・一方、評価が上っている項目は、「体育・スポーツの環境」「健康づくり」「ごみの分別やりサイクル」「防犯」「子育ての環境」「行政サービスの内容」について、各々0.2〜0.3ポイント上昇となっている。
- ・このように評価は変化したが、「住みよさ」の評価は変わらず、0.5を維持している。

図表3-4 まちの評価（加重平均値による比較）

	町全体			大山崎			円明寺			下植野		
	H11	H16	H21	H11	H16	H21	H11	H16	H21	H11	H16	H21
1)自然環境の保全・豊かさ	1.1	1.1	0.7	1.0	1.0	0.7	1.2	1.3	0.8	0.8	1.0	0.6
2)公園・緑地等の環境	0.4	0.4	0.0	0.1	0.1	-0.1	0.6	0.6	0.1	0.2	0.4	0.0
3)環境に配慮した生活・事業			0.0			0.0			0.0			-0.2
4)ごみの分別やリサイクル		0.5	0.6		0.3	0.5		0.5	0.7		0.7	0.5
5)騒音・振動等公害の抑制			-0.2			-0.5			0.1			-0.3
6)上水道	0.5	0.6	-0.4	0.5	0.5	-0.3	0.6	0.7	-0.5	0.5	0.8	-0.4
7)鉄道交通の便	0.0	0.0	0.1	1.0	1.0	1.1	-0.7	-0.5	-0.6	-0.7	-0.8	-0.9
8)バス交通の便	-0.7	-0.4	-0.7	-1.1	-0.8	-0.9	-0.4	0.0	-0.4	-0.6	-0.9	-1.0
9)生活用道路の安全・快適さ	-0.6	-0.4	-0.6	-0.5	-0.3	-0.6	-0.7	-0.4	-0.6	-0.3	-0.3	-0.8
10)歩道の段差・安全さ			-0.7			-0.7			-0.6			-0.8
11)買物の便	-0.8	-0.6	-0.8	-1.1	-0.7	-0.9	-0.8	-0.5	-0.7	-0.8	-0.9	-1.1
12)医療機関への交通の便	-0.7	-0.6	-0.7	-0.7	-0.7	-0.7	-0.8	-0.5	-0.6	-0.8	-0.9	-0.9
13)小中学校通学路の安全快適さ	-0.3	-0.2	-0.6	-0.4	-0.3	-0.6	-0.4	-0.2	-0.6	0.0	-0.1	-0.4
14)交通の安全	-0.5	-0.4	-0.6	-0.6	-0.5	-0.6	-0.4	-0.3	-0.6	-0.2	-0.5	-0.7
15)消防・救急・防災	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	-0.2	-0.1	0.0
16)防犯	-0.1	-0.3	-0.2	-0.2	-0.4	-0.2	0.0	-0.3	-0.1	-0.3	-0.4	-0.2
17)健康づくり	0.0	-0.1	0.1	-0.1	-0.2	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	-0.2	0.0
18)保健・医療	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	-0.1	-0.1
19)福祉	-0.2	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	-0.1	-0.1	-0.1	0.0	0.0
20)子育ての環境	0.2	0.0	0.1	0.0	-0.1	0.1	0.3	0.1	0.2	0.1	-0.1	0.0
21)高齢者等に配慮した環境	-0.2	-0.1	-0.3	-0.1	-0.1	-0.3	-0.2	0.0	-0.3	-0.2	-0.2	-0.2
22)生涯学習活動	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	-0.1	-0.2	-0.1
23)学校教育			0.0			0.0			-0.1			0.0
24)青少年の健全育成	0.1	0.0	-0.1	0.0	-0.1	0.0	0.1	0.1	-0.1	0.0	-0.1	0.0
25)体育・スポーツの環境	-0.2	-0.2	-0.1	-0.2	-0.3	0.0	-0.2	-0.2	-0.1	-0.1	-0.1	0.0
26)男女共同参画の取り組み			-0.1			-0.1			-0.1			0.0
27)近所づきあい	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.2	0.3	0.3
(28)自治会活動の活発さ	0.0	-0.1	-0.2	0.0	-0.2	-0.1	-0.1	0.0	-0.3	0.1	0.2	0.0
(29)住民の助け合い			-0.1			-0.1			-0.1			0.1
(30)町内の交流活動	-0.2	-0.2	-0.2	-0.1	-0.3	-0.2	-0.3	-0.2	-0.3	0.0	-0.1	-0.1
(31)まちづくりへの町民の参加・協働	-0.3	-0.3	-0.3	-0.3	-0.3	-0.3	-0.3	-0.3	-0.4	-0.2	-0.3	-0.1
32)広報・広聴や情報公開	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	-0.1	0.1
33)行政サービスの内容		-0.2	-0.2		-0.4	-0.2		-0.1	-0.2		-0.2	-0.1
34)行政サービスの利用の便			-0.3			-0.2			-0.4			-0.1
35)町の住みよさ	0.5	0.6	0.4	0.3	0.5	0.5	0.6	0.6	0.4	0.6	0.5	0.2

(注：31の「まちづくりへの町民の参加・協働」の項は、平成11、16年度調査では「まちづくり活動」としての評価)



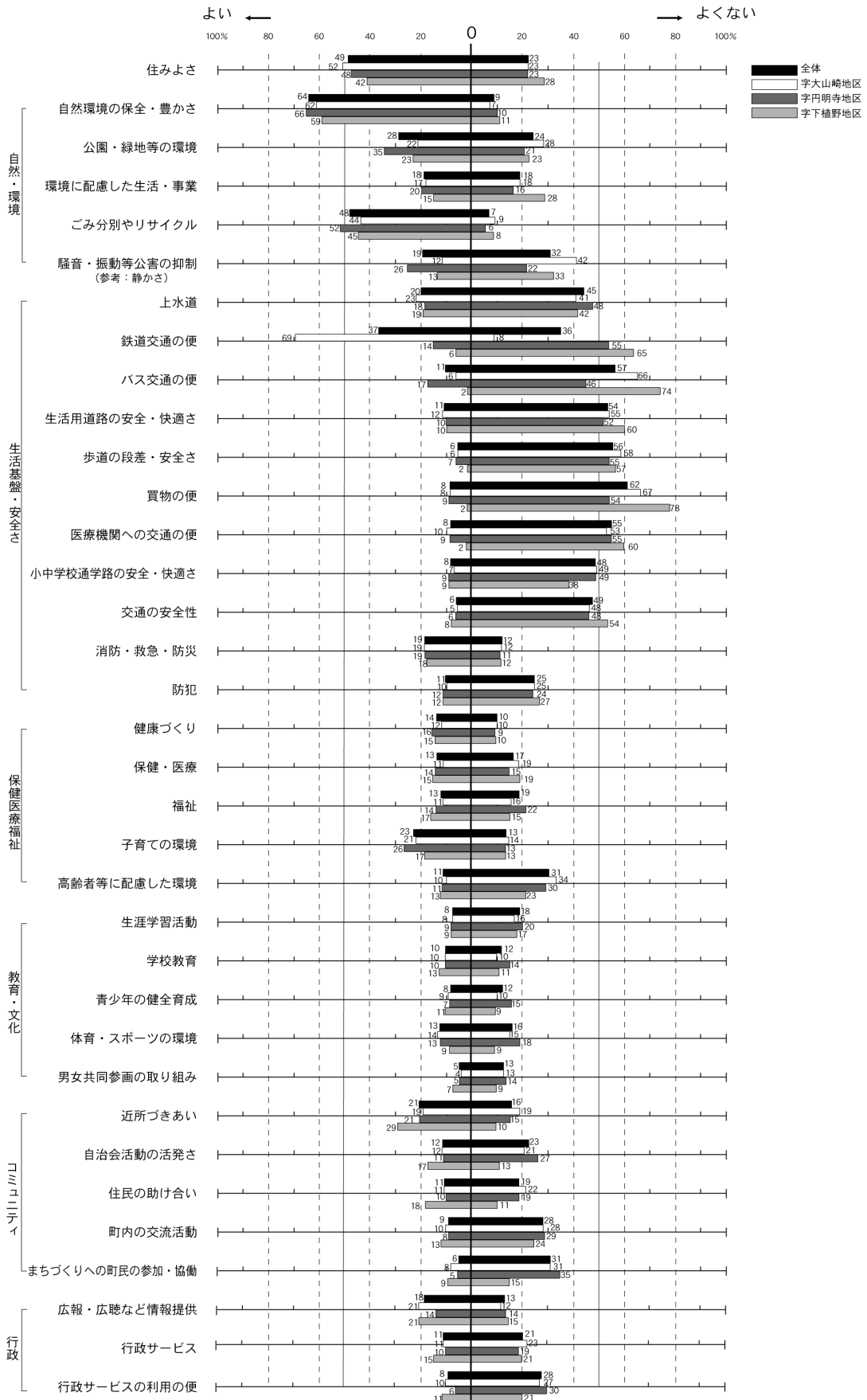
## ② 円明寺地区

- ・評価が「プラス」の項目については、高いポイント数の順に「自然環境の保全・豊かさ」0.8、「ごみの分別やりサイクル」0.7、「子育ての環境」0.2で、「町の住みよさ」0.4となっている。
- ・評価が「マイナス」の項目については、低い点数の順に、「買物の便」-0.7、「鉄道交通の便」-0.6、「歩道の段差・安全さ」-0.6、「生活用道路の安全・快適さ」-0.6、「医療機関への交通の便」-0.6、「交通の安全性」-0.6、「小中学校通学路の安全・快適さ」-0.6、「バス交通の便」-0.4、などで、交通の便と安全性の項目が占めている。
- ・平成16年度から21年度にかけて、評価が大きく下がった項目を見ると、「上水道」が1.2ポイント、「自然環境の保全・豊かさ」が0.5ポイント、「公園・緑地等の環境」が0.5ポイント、「小中学校通学路の安全・快適さ」が0.4ポイント、「バス交通の便」が0.4ポイント、「交通の安全」が0.3ポイント、「高齢者等に配慮した環境」が0.3ポイント、「自治会活動の活発さ」が0.3ポイント、それぞれ下がっている。
- ・一方、評価が上っている項目は、「ごみの分別やりサイクル」「防犯」について各々0.2ポイント上昇し、「子育ての環境」「体育・スポーツの環境」について各々0.1上昇している。
- ・こうした評価の影響を受けて、「住みよさ」が0.6から0.4に0.2ポイント下がっているものと考えられる。

## ③ 下植野地区

- ・評価が「プラス」の項目については、高いポイント数の順に「自然環境の保全・豊かさ」0.6、「ごみの分別やりサイクル」0.5、「近所づきあい」0.3で、「町の住みよさ」0.2となっている。
- ・評価が「マイナス」の項目については、低い点数の順に、「買物の便」-1.1、「バス交通の便」-1.0、「医療機関への交通の便」-0.9、「生活用道路の安全・快適さ」-0.8、「歩道の段差・安全さ」-0.8、「交通の安全性」-0.7などで、交通の便と安全性の項目が占めている。
- ・平成16年度から21年度にかけて、評価が大きく下がった項目を見ると、「上水道」が1.2ポイント下がり、「生活用道路の安全・快適さ」が0.5ポイント、「自然環境の保全・豊かさ」が0.4ポイント、「公園・緑地等の環境」が0.4ポイント、「小中学校通学路の安全・快適さ」が0.3ポイントそれぞれ下がっている。
- ・一方、評価が上っている項目は、「健康づくり」「防犯」「まちづくりへの町民の参加・協働」「広報・広聴や情報公開」について各々0.2ポイント上昇、「消防・救急・防災」「子育ての環境」「生涯学習活動」「青少年の健全育成」「体育スポーツ」「行政サービスの内容」については各々0.1ポイント上昇となっている。
- ・こうした評価を受けて、「住みよさ」が0.5から0.2へ、0.3ポイント下がっているものと考えられる。

図表3-5 まちの評価（地区別比較）



#### (4) まちの評価項目の重要度評価(問15-SA)

- ・まちの評価として34項目をとりあげ、住民が重要だと考えている項目を把握した。  
「重要」「やや重要」「重要ではない」の各評価に、+2、+1、0ポイントの重み付けを行い、加重平均を算出した。この結果を、図表3-6に示す。
- ・加重平均値1.6の項目は、「上水道」
- ・加重平均値1.5の項目は、「生活用道路の安全・快適さ」「交通の安全性」「防犯」
- ・加重平均値1.4の項目は、「自然環境の保全・豊かさ」「歩道の段差・安全さ」「小中学校通学路の安全・快適さ」「消防・救急・防災」「高齢者等に配慮した環境」
- ・加重平均値1.3の項目は、「公園・緑地等の環境」「ごみの分別やりサイクル」「騒音・振動等公害の抑制」「医療機関への交通の便」「保健・医療」「福祉」「子育ての環境」
- ・加重平均値1.2の項目は、「環境に配慮した生活・事業」「鉄道交通の便」「買物の便」「学校教育」「行政サービスの内容」
- ・加重平均値1.1の項目は、「バス交通の便」「健康づくり」「住民の助け合い」「広報・広聴や情報公開」「行政サービスの利用の便」
- ・加重平均値1.0の項目は、「青少年の健全育成」「近所づきあい」
- ・加重平均値0.9の項目は、「まちづくりへの町民の参加・協働」
- ・加重平均値0.8の項目は、「生涯学習活動」「体育・スポーツの環境」「自治会活動の活発さ」「町内の交流活動」
- ・加重平均値0.6の項目は、「男女共同参画の取り組み」
- ・地区別には、あまり差異はみられない。

図表3-6 まちの評価項目の重要度評価（加重平均値による地区別比較）

		町全体	大山崎	円明寺	下植野
自然・環境	1) 自然環境の保全・豊かさ	1.4	1.4	1.5	1.4
	2) 公園・緑地等の環境	1.3	1.2	1.3	1.2
	3) 環境に配慮した生活・事業	1.2	1.2	1.3	1.3
	4) ごみの分別やリサイクル	1.3	1.2	1.3	1.4
	5) 騒音・振動等公害の抑制	1.3	1.3	1.4	1.3
生活基盤・安全性	6) 上水道	1.6	1.6	1.7	1.5
	7) 鉄道交通の便	1.2	1.2	1.3	1.3
	8) バス交通の便	1.1	0.9	1.3	1.4
	9) 生活用道路の安全・快適さ	1.5	1.5	1.5	1.7
	10) 歩道の段差・安全性	1.4	1.5	1.4	1.4
	11) 買物の便	1.2	1.2	1.1	1.2
	12) 医療機関への交通の便	1.3	1.3	1.3	1.4
	13) 小中学校通学路の安全快適さ	1.4	1.4	1.5	1.4
	14) 交通の安全	1.5	1.5	1.5	1.5
	15) 消防・救急・防災	1.4	1.4	1.5	1.4
	16) 防犯	1.5	1.4	1.5	1.3
保健医療福祉	17) 健康づくり	1.1	1.1	1.2	1.1
	18) 保健・医療	1.3	1.3	1.4	1.3
	19) 福祉	1.3	1.2	1.4	1.2
	20) 子育ての環境	1.3	1.3	1.4	1.1
	21) 高齢者等に配慮した環境	1.4	1.4	1.4	1.2
教育・文化	22) 生涯学習活動	0.8	0.8	0.8	0.7
	23) 学校教育	1.2	1.2	1.2	1.2
	24) 青少年の健全育成	1.0	1.0	1.0	0.9
	25) 体育・スポーツの環境	0.8	0.8	0.8	0.8
	26) 男女共同参画の取り組み	0.6	0.6	0.7	0.5
コミュニティ	27) 近所づきあい	1.0	0.9	1.1	1.0
	(28) 自治会活動の活発さ	0.8	0.7	0.8	0.9
	(29) 住民の助け合い	1.1	1.0	1.2	0.1
	(30) 町内の交流活動	0.8	0.7	0.9	0.9
	(31) まちづくりへの町民の参加・協働	0.9	0.8	0.9	0.9
行政	32) 広報・広聴や情報公開	1.1	1.0	1.2	1.0
	33) 行政サービスの内容	1.2	1.2	1.2	1.0
	34) 行政サービスの利用の便	1.1	1.1	1.2	0.9

## (5) 住みよさの改善についての分析

### ① 住みよさへの貢献度が強い項目とその満足率（図表3-8）

- ・問15の(1)～(34)のまちの項目への5段階評価について、「よい」「ややよい」「ふつう」の合計を「満足率」とする。
- ・満足率が高いのは、順に「ごみの分別やりサイクル」「健康づくり」「自然環境の保全・豊かさ」「消防・救急・防災」「広報・広聴や情報公開」「近所づきあい」「学校教育」「子育ての環境」「保健・医療」「青少年の健全育成」「福祉」「体育・スポーツの環境」などで、「住みよさ」を高めていると考えられる。
- ・満足率が低いのは、「買物の便」「バス交通の便」「歩道の段差・安全さ」「医療機関への交通の便」「生活用道路の安全・快適さ」「小中学校通学路の安全・快適さ」「交通の安全性」「上水道」などで、「住みよさ」を低くしていると考えられる。
- ・町の「住みよさ」と各環境項目の評価の相関性を、住みよさへの「貢献度」（相関性：独立係数）で示す。相関性の強い順に住みよさへの貢献度が強いと考えられ、「環境に配慮した生活・事業」「高齢者等に配慮した環境」「自然環境の保全・豊かさ」「福祉」「生活用道路の安全・快適さ」「買物の便」「学校教育」「鉄道交通の便」「生涯学習活動」「防犯」の順となる。
- ・満足率が低く、住みよさへの貢献度が高い項目ほど、住みよさの改善度が高いとして、各項目について住みよさの改善度を数値化したものを、図表3-8に示す。

### ② 町の住みよさの改善（図表3-8）

- ・町の住みよさの改善度が最も高いのは、「生活用道路の安全・快適さ」、「買物の便」、「高齢者等に配慮した環境」を改善することとなる。
- ・次いで「バス交通の便」「歩道の段差・安全さ」「環境に配慮した生活・事業」「交通の安全性」などを改善することがあげられる。

### ③ 各地区の住みよさの改善（図表3-8）

- ・大山崎地区の住みよさの改善度については、最も高い順に、「買物の便」、「生活用道路の安全・快適さ」、「バス交通の便」、「交通の安全性」、「医療機関への交通の便」となる。
- ・円明寺地区の住みよさの改善度については、最も高い順に、「生活用道路の安全・快適さ」、「歩道の段差・安全さ」、「高齢者等に配慮した環境」、「鉄道交通の便」、「福祉」となる。
- ・下植野地区の住みよさの改善度については、最も高い順に、「上水道」、「鉄道交通の便」、「騒音・振動等公害の抑制」、「交通の安全性」、「買物の便」となる。

図表3-8 住みよさの改善度

(独立係数：相関性を表す数値)

町全体

	満足率	独立係数	改善度
-9生活用道路の安全・快適さ	44.6	0.195	19.02
-11買物の便	37	0.1815	16.58
-21高齢者等に配慮した環境	65.9	0.2179	11.67
-8バス交通の便	41.4	0.1614	9.77
-10歩道の段差・安全さ	42.4	0.1625	9.69
-3環境に配慮した生活・事業	76.6	0.2236	8.29
-14交通の安全性	49.3	0.161	6.98
-7鉄道交通の便	62.4	0.175	6.5
-19福祉	77	0.2056	5.06
-12医療機関への交通の便	43.8	0.1368	4.12
-5騒音・振動等公害の抑制	65.9	0.1702	3.42
15-1自然環境の保全・豊かさ	86.1	0.2129	3.29
-34行政サービスの利用の便	67.9	0.1678	1.9
-16防犯	72.5	0.1735	1.16
-22生涯学習活動	74.9	0.1746	0.59
-23学校教育	80.2	0.1756	-0.89
-13小中学校通学路の安全・快適さ	48.3	0.1143	-0.95
-31まちづくり町民参加・協働	64.4	0.1426	-1.34
-6上水道	52.9	0.1154	-2.18
-2公園・緑地等の環境	72.5	0.1549	-2.51
-20子育ての環境	79.6	0.1644	-2.62
-24青少年の健全育成	79.4	0.1595	-3.55
-30町内の交流活動	68.3	0.1346	-4.19
-18保健・医療	79.4	0.1514	-5.68
-28自治会活動の活発さ	73.9	0.1476	-5.7
-33行政サービスの内容	75.2	0.1475	-5.99
-17健康づくり	86.7	0.1564	-6.75
-32広報・広聴や情報公開	83.2	0.1501	-7.25
-25体育・スポーツの環境	76.8	0.1433	-7.96
-27近所づきあい	81.8	0.1431	-9.14
-26男女共同参画の取り組み	76.8	0.1316	-13.25
-4ごみの分別やりサイクル	89.1	0.1298	-15.79
-29住民の助け合い	76.8	0.1204	-18.73
-15消防・救急・防災	85.3	0.1144	-21.6

円明寺地区

	満足率	独立係数	改善度
-9生活用道路の安全・快適さ	46.1	0.2336	13.55
-10歩道の段差・安全さ	43.6	0.2190	11.60
-21高齢者等に配慮した環境	67.5	0.2939	11.00
-7鉄道交通の便	43.6	0.1955	8.01
-19福祉	74.1	0.2829	7.08
-3環境に配慮した生活・事業	78.6	0.2911	6.32
-11買物の便	44.4	0.1815	5.97
-8バス交通の便	52.3	0.1942	4.90
-14交通の安全性	50.2	0.1859	4.57
-24行政サービスの利用の便	65.8	0.2270	4.50
15-1自然環境の保全・豊かさ	86.0	0.2954	4.30
-12医療機関への交通の便	43.2	0.1613	4.12
-5騒音・振動等公害の抑制	74.5	0.2523	3.62
-22生涯学習活動	73.3	0.2358	2.29
-2公園・緑地等の環境	76.1	0.2324	1.01
-20子育ての環境	47.7	0.1351	0.04
-31まちづくり町民参加・協働	60.9	0.1662	-0.91
-23学校教育	78.6	0.2198	-1.01
-6上水道	49.4	0.1292	-1.05
-17健康づくり	87.2	0.2324	-2.44
-20子育ての環境	81.5	0.2069	-3.38
-33行政サービスの内容	77.4	0.1948	-3.67
-32広報・広聴や情報公開	81.9	0.1975	-4.78
-30町内の交流活動	67.5	0.1507	-4.87
-18保健・医療	81.5	0.1916	-5.58
-24青少年の健全育成	77.4	0.1804	-6.53
-27近所づきあい	82.7	0.1848	-7.18
-25体育・スポーツの環境	74.9	0.1704	-8.77
-16防犯	72.8	0.1671	-9.80
-26男女共同参画の取り組み	75.7	0.1600	-11.84
-4ごみの分別やりサイクル	90.9	0.1717	-12.23
-29住民の助け合い	76.5	0.1567	-12.84
-28自治会活動の活発さ	70.0	0.1560	-14.08
-15消防・救急・防災	86.0	0.1385	-18.76

大山崎地区

	満足率	独立係数	改善度
-11買物の便	32.5	0.2090	19.91
-9生活用道路の安全・快適さ	44.0	0.2070	16.41
-8バス交通の便	33.0	0.1860	13.64
-14交通の安全性	49.8	0.1814	7.45
-12医療機関への交通の便	45.9	0.1732	6.85
-10歩道の段差・安全さ	41.1	0.1574	5.44
-7鉄道交通の便	90.9	0.2524	5.38
-16防犯	72.2	0.2114	4.80
-24青少年の健全育成	81.8	0.2280	4.37
-5騒音・振動等公害の抑制	56.9	0.1772	4.28
-34行政サービスの利用の便	69.9	0.2012	4.03
-6上水道	56.5	0.1747	3.90
-33行政サービスの内容	73.7	0.1932	1.45
-22生涯学習活動	77.0	0.1953	0.81
-28自治会活動の活発さ	76.6	0.1918	0.42
-20子育ての環境	77.5	0.1895	-0.18
-23学校教育	82.3	0.1945	-0.77
-3環境に配慮した生活・事業	77.0	0.1840	-0.85
-30町内の交流活動	68.9	0.1663	-1.29
-27近所づきあい	79.9	0.1831	-1.83
-13小中学校通学路の安全・快適さ	46.9	0.1187	-2.03
-31まちづくり町民参加・協働	65.6	0.1504	-2.68
-29住民の助け合い	76.6	0.1718	-2.98
-15消防・救急・防災	84.7	0.1820	-3.44
-18保健・医療	77.5	0.1708	-3.53
-21高齢者等に配慮した環境	63.2	0.1397	-3.62
-25体育・スポーツの環境	78.0	0.1673	-4.61
-4ごみの分別やりサイクル	87.1	0.1754	-5.43
-19福祉	79.4	0.1560	-8.74
-2公園・緑地等の環境	69.4	0.1563	-9.05
-17健康づくり	86.6	0.1492	-12.56
-32広報・広聴や情報公開	85.6	0.1335	-18.37
-26男女共同参画の取り組み	78.0	0.1203	-24.41
15-1自然環境の保全・豊かさ	87.6	0.1004	-32.71

下植野地区

	満足率	独立係数	改善度
-6上水道	56.0	0.3847	14.50
-7鉄道交通の便	34.0	0.2882	10.39
-5騒音・振動等公害の抑制	64.0	0.3623	9.20
-14交通の安全性	44.0	0.2969	8.92
-11買物の便	22.0	0.2452	8.87
-8バス交通の便	26.0	0.2519	8.49
-2公園・緑地等の環境	72.0	0.3716	7.30
-9生活用道路の安全・快適さ	38.0	0.2542	5.56
-3環境に配慮した生活・事業	66.0	0.3277	5.31
-10歩道の段差・安全さ	42.0	0.2428	3.48
-21高齢者等に配慮した環境	72.0	0.3278	3.34
-16防犯	72.0	0.3233	2.93
-12医療機関への交通の便	40.0	0.2304	2.90
-31まちづくり町民参加・協働	78.0	0.3316	2.05
-20子育ての環境	80.0	0.3335	1.71
-32広報・広聴や情報公開	82.0	0.3305	0.97
-33行政サービスの内容	76.0	0.3009	-0.02
-30町内の交流活動	70.0	0.2831	-0.04
-4ごみの分別やりサイクル	90.0	0.3233	-1.57
-24青少年の健全育成	80.0	0.2904	-1.91
-17健康づくり	86.0	0.3050	-2.14
-13小中学校通学路の安全・快適さ	58.0	0.2227	-2.15
-15消防・救急・防災	86.0	0.3036	-2.26
-22生涯学習活動	76.0	0.2727	-2.80
-28自治会活動の活発さ	82.0	0.2849	-2.97
-26男女共同参画の取り組み	80.0	0.2727	-3.85
-23学校教育	80.0	0.2531	-7.02
-34行政サービスの利用の便	74.0	0.2426	-8.73
-29住民の助け合い	80.0	0.2365	-10.48
-19福祉	82.0	0.2223	-13.87
-27近所づきあい	86.0	0.2181	-15.20
-18保健・医療	78.0	0.1920	-21.50
15-1自然環境の保全・豊かさ	82.0	0.1862	-22.69
-25体育・スポーツの環境	82.0	0.1407	-34.51

## (6) 町への愛着 (問13-SA)

### ① 単純集計より

・町への愛着は、「大いに愛着がある」34.7%、「多少愛着がある」46.7%、両者を合わせた「愛着がある」は81.4%となっている。

「あまり愛着はない」は9.5%、「まったく愛着はない」は2.2%にすぎない。

・平成6、11、16、21年度調査の変化をみると、「大いに愛着がある」は44%、39.2%、35.3%、34.7%と減少しているが、「多少愛着がある」は43%、43.2%、47.9%、46.8%と変化し、両者を合わせた合計は87%、82.4%、83.2%、81.5%とほぼ横ばいとなっている。

・合計の「愛着がある」はあまり減少していないが、「大いに愛着がある」は年々かなり減少している。

### ② クロス集計より

・地区別では、大山崎地区と円明寺地区については、町平均とほとんど差異はみられない。

下植野地区については、平成16、21年度調査の変化をみると、「大いに愛着がある」は34.5%から26.0%に減少し、「多少愛着がある」は52.7%から46.0%に減少しており、その合計が87.2%から72.0%に大きく減少している。(平成11年度調査では、「大いに愛着がある」は52.5%と多く、「多少愛着がある」は39.0%で、合計91.5%と多かった)

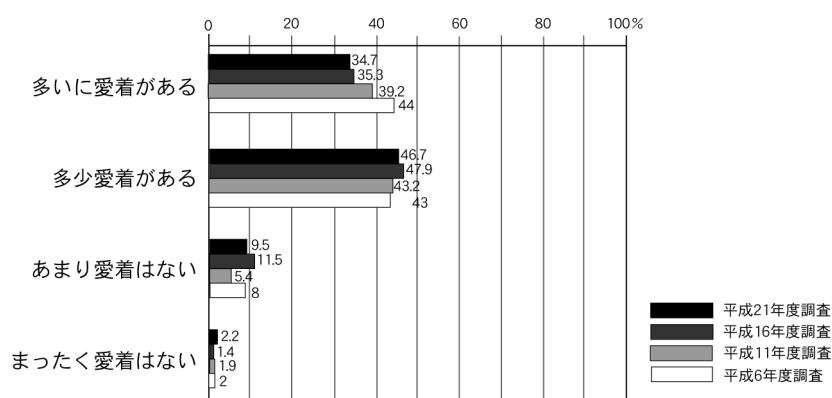
・年齢別では、加齢とともに「大いに愛着がある」が増加し、「70歳」以上では46.4%となる。ただし、これに「多少愛着がある」を加えた「愛着がある」は、年齢による顕著な傾向はみられない。

・町への愛着は、町の住みよさと強く関わっている。

「住みよい」人は、「大いに愛着がある」が68.4%、「多少愛着がある」が27.5%で、合計95.9%に達する。「やや住みよい」人は、「大いに愛着がある」が34.6%、「多少愛着がある」が60.7%で、合計95.3%に達する。

・ここで、「やや住みにくい」人(17.1%)について、「大いに愛着がある」が22.1%、「多少愛着がある」が47.7%となっており、合計69.8%に達することが注目される。

図表3-9 町への愛着 (平成6、11、16、21年度の比較)



(地区別・年齢別)

	大いに影響ある	多少影響ある	あまり影響ない	まったく影響ない	わからない	n
合計	34.7	46.8	9.5	2	6.7	505
20歳代	29.3	39.0	7.3	7.3	17.1	41
30歳代	26.3	52.6	14.5	6.6		76
40歳代	25.4	53.7	11.9	3	6.0	67
50歳代	34.3	48.6	5.7	4	7.1	70
60～64歳	33.3	52.2	8.7	4		69
65～69歳	38.2	43.6	12.7	5		55
70～74歳	50.9	33.3	5.3	3	7.0	57
75歳以上	42.6	45.6	8.8	2		69
字大山崎	36.8	46.4	10.0	6.2		209
字門明寺	35.0	46.9	9.1	3	5	243
字下植野	26.0	46.0	10.0	16.0		50
Aエリア	33.1	48.5	9.2	4	4	163
Bエリア	36.7	40.0	8.3	13.3		60
Cエリア	32.0	44.0	10.0	12.0		50
Dエリア	42.9	52.4	4			42
Eエリア	36.5	46.1	11.4	5.0		167
Fエリア	11.8	58.8	11.8	5.9	11.8	17

(住みよさとのクロス集計)

	大いに影響ある	多少影響ある	あまり影響ない	まったく影響ない	わからない	n
合計	34.7	46.8	9.5	2	6.7	505
住みよい	68.3	27.5	2			120
やや住みよい	34.6	60.6	3			127
ふつう	18.7	59.0	12.9	9.4		139
やや住みにくい	22.1	47.7	17.4	11.6		86
住みにくい	10.0	6.7	43.3	30.0	10.0	30



(7) 定住意向 (問10-SA)

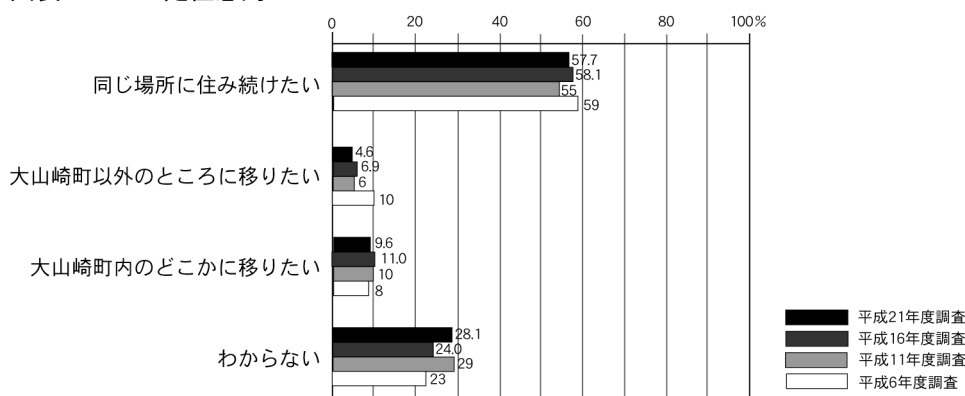
① 単純集計より

- ・「同じ場所に住み続けたい」は57.7%、「町内で移転したい」は4.6%で、町内に定住を希望する者が62.3%を占めるのに対し、「町外に移転したい」は9.6%にとどまる。また、「わからない」は28.1%となっている。
- ・平成6、11、16、21年度の各調査の町内定住希望は、各々69%、61.1%、65.0%、62.3%と推移している。

② クロス集計より

- ・地区別にみると、下植野地区は定住希望が高かったが、平成16、21年度の各調査の町内定住希望の変化をみると、「同じ場所に住み続けたい」が各々63.6%、58.0%、「町内で移転したい」が各々10.9%、0%で、町内に定住を希望する者が74.5%から58.0%に減少している。これに対し、「町外に移転したい」は9.1%から12.0%にやや増え、「わからない」は16.4%から30.0%にかなり増えている。
- ・年齢別に「同じ場所に住み続けたい」をみると、20歳代では26.8%で、加齢に伴い増加し、70歳以上では79.2%になっている。
- ・居住歴別に「同じ場所に住み続けたい」をみると、「20年未満」は37.3%で、「20～30年未満」は46.4%、「30～50年未満」は69.3%、「50年以上」は89.2%と定住意向が高い。

図表3-12 定住意向



(地区別集計)

	住み続けたい	町内で住替えたい	町外に移りたい	わからない	n
合計	57.7	4.6	9.6	28.1	505
宇大山崎	60.7	0.0	8.7	26.2	209
宇門崎寺	54.7	5.0	9.9	29.6	243
宇下植野	58.0	0.0	12.0	30.0	50

(8) 最も近い子どもの居住場所 (問11-SA)

① 単純集計

- ・ 全体の71.5%が回答している。その71.5%の内訳は、「同居している」が43.4% (60.7%)、「町内」が6.9% (9.7%) で、合計50.3% (70.5%) が町内に近居している。「近隣市町」は12.7% (17.7%)、「それ以外」は8.5% (11.9%) と少ない。

注：( ) 内の%は、子どもがいる回答者に対する比率。

② クロス集計

- ・ 回答者に対する比率から、最も近い子どもの居住場所で同居が多いのは「Bエリア」73.2%と「Fエリア」70.0%となっている。
- ・ 近隣市町内が最も多いのは、Cエリア97.0%とBエリアの95.0%となっている。  
(エリアについては、調査票の問7参照)

図表3-13 最も近い子どもの居住場所 (回答者に対する比率)

	同居	町内	近隣市町	それ以外	n
合計	60.7	9.7	17.7	11.9	505
男性	57.6	11.4	16.5	14.6	228
女性	63.5	8.0	19.0	9.5	274
20歳代	100.0				41
30歳代	97.9				76
40歳代	94.0			6.0	67
50歳代	75.9		5.2	13.8	70
50～64歳	51.0	12.2	22.4	14.3	69
65～69歳	34.8	13.0	37.0	15.2	55
70～74歳	26.2	19.0	35.7	19.0	57
75歳以上	33.9	20.3	20.3	25.4	69
字大山崎	60.8	9.8	14.4	15.0	209
字円明寺	59.5	10.4	19.7	10.4	243
字下穂野	63.6	6.1	24.2	6.1	50
Aエリア	57.4	9.0	20.5	13.1	163
Bエリア	73.2	4.9	17.1	4.9	60
Cエリア	60.6	12.1	24.2	3	50
Dエリア	61.8	8.8	11.8	17.6	42
Eエリア	59.3	11.0	15.3	14.4	167
Fエリア	70.0	10.0	10.0	10.0	17